

分析結果報告書〔2〕 1 / 4

1. 2 大気試料 (PM2.5抽出液試料) (アニオン成分:イオンクロマトグラフ法以外)

イオンクロマトグラフ法以外(吸光光度法等)で分析した場合、この分析結果報告書〔2〕に記入する。
イオンクロマトグラフ法で分析した場合、分析結果報告書〔1〕に記入する。

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得(複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(カ`ト`25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	() 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

項目	分析の実施 注1)	回数	分析結果 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) 注1)	
			検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
塩化物イオン	1. 実施 2. 実施せず	1回目		
		2回目		
		3回目		
硝酸イオン	1. 実施 2. 実施せず	1回目		
		2回目		
		3回目		
硫酸イオン	1. 実施 2. 実施せず	1回目		
		2回目		
		3回目		

注1) 大気1 m^3 に相当するフィルターに水1.5mLの割合で添加して調製した抽出液試料とし、分析結果は大気中の各イオンの濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)として記入する。

記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。

分析を実施した場合、「分析結果」(「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」)を記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>

「塩化物イオン」

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	1. イオンクロマトグラフ法 2. イオン電極法 3. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

「硝酸イオン」

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	1. イオンクロマトグラフ法 2. 還元蒸留-インドフェノール青吸光光度法 3. 銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光光度法 4. 流れ分析法 5. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

「硫酸イオン」

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	1. イオンクロマトグラフ法 2. クロム酸バリウム吸光光度法 3. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

分析結果報告書〔2〕 2 / 4

<測定条件>

○塩化物イオン
「イオン電極法」

試料の量	() mL
酢酸塩緩衝液(pH5)の添加量	() mL
調節した水温	() °C 注4)
参考とした分析方法	1. 排水の分析方法「JIS K 0102」 2. その他()

注4) 電位測定時の水温を記入する。

○硝酸イオン
「還元蒸留-インドフェノール青吸光光度法」

試料の量	() mL
還元蒸留 デバルダ合金の添加量	() g
吸収液	1. 硫酸(25 mmol/L) () mL 2. その他()
留出液の量(定容量)	() mL
留出液(定容したもの)の分取量	() mL
フェノールとの反応 温度	() °C
時間	() 分間
測定波長	() nm
参考とした分析方法	1. 排水の分析方法「JIS K 0102」 2. その他()

「銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光光度法」

試料の量	() mL
塩化アンモニウム溶液の添加量	() mL
還元用溶液(定容量)	() mL
還元後の流出液の量(分取量)	() mL
測定波長	() nm
参考とした分析方法	1. 排水の分析方法「JIS K 0102」 2. その他()

「流れ分析法」

方法	1. カドミウム還元・磷酸酸性ナフチルエチレンジアミン発色 F I A 法 2. カドミウム還元・塩酸酸性ナフチルエチレンジアミン発色 F I A 法 3. カドミウム還元・磷酸酸性ナフチルエチレンジアミン発色 C F A 法 4. カドミウム還元・塩酸酸性ナフチルエチレンジアミン発色 C F A 法 5. その他()
測定波長	() nm
参考とした分析方法	1. 排水の分析方法「JIS K 0102」 2. その他()

○硫酸イオン
「クロム酸バリウム吸光光度法」

試料の量	() mL
測定波長	() nm
参考とした分析方法	1. 排水の分析方法「JIS K 0102」 2. その他()

分析結果報告書〔2〕 3 / 4

<検量線の作成等>

「イオン電極法：塩化物イオン」

定量方法 方法	1. 検量線法 (片対数) 2. その他 ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 (電位等)	() 最小 () ~ 最大 () 注5) 作成範囲の単位: 1. mg/L 2. その他 () ()
試料の指示値 (電位等)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
検出下限値 注6)	() mg/L

注5) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) 等を記入する。

注6) 抽出液試料中の濃度 (mg/L) に換算した値を示す。

「吸光光度法 (流れ分析法を含む) : 硝酸イオン」

定量方法 方法 内標準法: 内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小 () ~ 最大 () 注7) 作成範囲の単位: 1. mg/L 2. その他 () ()
試料の指示値 注8)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
空試験の指示値 注9)	()
検出下限値 注10)	() mg/L

注7) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) 等を記入する。

銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光光度法では「硝酸イオン+亜硝酸イオン」の値を記入する。

注8) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

指示値は「検量線の最高濃度」、「試料」、「空試験」とも同じもの (例えば吸光度) を記入する。

銅・カドミウム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光光度法では「硝酸イオン+亜硝酸イオン」の値を記入する。

注9) 標準添加法では記入しない。

注10) 抽出液試料中の濃度 (mg/L) に換算した値を示す。

「吸光光度法：硫酸イオン」

定量方法 方法 内標準法: 内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小 () ~ 最大 () 注7) 作成範囲の単位: 1. mg/L 2. その他 () ()
試料の指示値 注8)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
空試験の指示値 注9)	()
検出下限値 注10)	() mg/L

注7) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) 等を記入する。

注8) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

なお、指示値は「検量線の最高濃度」、「試料」、「空試験」とも同じもの (例えば吸光度) を記入する。

注9) 標準添加法では記入しない。

注10) 抽出液試料中の濃度 (mg/L) に換算した値を示す。

分析結果報告書〔2〕 4 / 4

<試料の保存状況>

保存状況	保存方法等 保存時間	注1 1)	1. 冷暗所保存 2. 保存しない（直ちに分析） 3. その他（ ） 塩化物イオン 約（ ）時間 硝酸イオン 約（ ）時間 硫酸イオン 約（ ）時間 約（ ）℃
	保存温度		

注1 1) 時間単位で記入する（例えば、60分では1時間、4日では96時間とする）。

<アニオン成分の分析の経験>

PM2.5抽出液のアニオン成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
降水中のアニオン成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
環境水、地下水等のアニオン成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--